

平成22年度 西陵中学校についてのアンケート結果 分析と今後の方針

アンケート実施時期:平成22年12月初旬

1 教育目標実現に向けた努力

保護者の約9割から「全体的に見て満足のできる状態である」との評価をいただいています。生徒についても同様の結果が出ていますが、今後も学校づくりビジョンの見直しや実現に向けた努力を引き続き行い、様々な機会を通して取り組みの成果を生徒、保護者へともにわかりやすく伝えていくようにします。

2 わかる授業

ほぼ9割の生徒が、「先生たちは、授業をていねいにわかりやすく教えてくれる」と答えています。また、教師も全員が「授業改善・工夫を行っている」と回答しています。校内研修の充実や教師全員が相互に授業公開を行う取り組みの成果の表れとも言えます。しかし、授業がわかりにくいと回答している生徒もいるのも事実です。このことをしっかりと受け止め、授業の見直しや改善、生徒の家庭学習の充実を図りながら理解と定着に向けて取り組みをさらに進めていきます。

3 道徳・人権教育の充実

生徒からは約9割、保護者からは約8割の肯定的な評価をいただきました。指導計画の見直しや教材や指導の工夫を行うとともに、日常の指導や取り組みを行った成果と考えています。しかし、保護者からの約2割の否定的な評価も含め、道徳の時間を中心にすべての領域、教育活動において道徳人権教育の充実を図り、生徒や保護者にそのことが実感できるようにしていきたいと考えます。

4 キャリア教育の推進

生徒からは9割以上、保護者からは約9割の肯定的な評価をいただきました。キャリア教育推進計画にもとづき、職業調べや職場体験学習、高校調べ等、1年生から段階的・系統的に進めている成果の表れであるともいえるでしょう。自分の生き方や自分の将来を考える上で、生徒が実感できる、有効な教育活動であったと言えます。今後も、計画の見直しと実践の積み上げを行い、生徒が自ら進路を考え、拓いていけるように充実を図っていきます。

5 適切な評価

生徒の8割以上が肯定的な評価をしています。シラバス(学習計画書)の改訂、配付、そして指導にあたって適切な評価を心がけた結果と言えます。ただ、生徒の2割弱、保護者においては3割弱が、「適切に評価されているかどうか分からない」と回答しています。今後も、教師自身が適切な評価についての見直しや生徒や保護者に評価への一層の理解、認識を高める努力を行い、評価が次に生かされるようにしていきたいと考えます。

6 充実した学校生活

ほぼ9割の生徒が学校生活を楽しいと感じており、多くの生徒が学校生活に満足していると言えます。また、保護者からも9割弱と同程度の割合で肯定的な評価をいただきました。定期的な教育相談や日常の取り組み、スクールカウンセラーとの連携を適切かつ迅速に行い、課題の解決に取り組んでいる結果とも言えます。しかし、少数ですが「学校生活が楽しいと思えない」と答える生徒が存在するのも事実です。相談活動の充実とともに、生徒の視点や立場に立った仲間づくりにしっかりと取り組み、一人ひとりが充実した学校生活を送れるよう改善を図っていきます。

7 仲間づくり

ほとんどの生徒は学級の仲間や友達との関係がうまくいっていると回答しています。しかし、約2割の保護者からは「学校の努力が足りない」との意見をいただいています。引き続き教育相談やスクールカウンセラーとの連携を通してアドバイスや指導を行いながら、生徒が円滑な人間関係を築けるよう、改善や集団づくりを行っていきます。

8 生徒指導上の問題への対応

生徒指導については、問題の早期発見・早期解決をめざして共通認識を持って取り組み、解決を図ってきました。しかし、約2割の保護者から不十分との回答をいただきました。今後はさらに危機管理意識を高く持ち、生徒が安心して学校生活を送れるように、問題の早期発見・早期解決や組織的に対応できる体制づくりに努力していきます。また、問題発生時においても、学校全体で組織的に対応できるように、教師の連携を図っていく必要があると考えます。

9 教育相談

毎学期の定期的な教育相談や生徒との日常的な関係づくりの中で、相談活動ができるようにしています。しかし、生徒は約2割、保護者では4割弱が「悩みや問題などに親身になって相談にのってくれる」と感じていません。先生に相談しにくいと感じている生徒もいると思われることから、担任だけでなくさまざまな教師が関わりを持つことで生徒との信頼関係をより強くして相談しやすい状況や、少しでも解決につながったと実感できるような相談活動の充実をめざします。また、スクールカウンセラーとの連携も強化していきます。

10 部活動の充実

8割以上の生徒は、「部活動は楽しく充実している(充実するよう努力している)」と評価しています。普段の活動の様子からも、熱心に活動している姿が見られます。また、顧問もできる限り指導に行っています。しかし、保護者の約3割から「そうでない」と回答をいただきました。今後も、部活動の教育的意義を十分に共通認識し、指導にあたっていきます。

11 保護者・地域との連携

8割以上の保護者から肯定的な評価をいただいています。また、9割近くの生徒が、地域の人や外部講師による学習活動が役に立つと感じています。教師以外の授業や学校外での活動を行ったり、保護者や地域の方に授業や行事を公開して生徒について話し合う機会を設けていることが評価されていると思います。今後もさらに内容を充実させ、連携を図っていきたいと考えます。

12 危機管理体制

生徒、保護者ともほぼ9割が安全に学校生活を送れていると感じています。学校生活での安全はもちろん、学校外、登下校時の安全のため、教師による下校時の安全パトロールを毎日実施しています。しかし、登下校の事故や校内のけが等は少なからず起きている現状もあります。今後も、生徒の安全意識を高める指導や安全確保のための体制の充実をめざしていきます。また、教師も危機管理意識を常に持ち、不慮の事態について連携して適切に対応、対処できるようにしていく必要があります。

13 情報の発信・受信

生徒や学校の様子は、学年通信や学校通信、ホームページのお知らせボードなどに掲載するとともに、学校ホームページの更新により、学校全体として情報提供に取り組んできました。その結果、8割以上の保護者から肯定的な評価をいただきました。課題であった「ホームページの充実と見直し、効果的な運用」については十分な成果が表れたと考えます。今後も情報内容の充実とタイムリーな発行・発信、また生徒への学級通信や学年通信などの有意義な活用を行いながら、保護者や地域の方からの願いをつかむ努力をおこなっていきます。